

# 第5・6学年 国語科学習指導案

日時：平成18年2月1日第5校時  
 場所：高根小学校 5・6年教室  
 授業者：下谷 清浩

## 1. 教材名

【5年生】詩『ねぎぼうず』他3編 【6年生】詩『生きる』

## 2. 教材について

5年生の詩『ねぎぼうず』他3編は、言葉で紡ぎ出すなぞや比喩や連想のおもしろさを持ち、本文と題名とが響き合い、それぞれ新鮮な味わいを紡ぎ出している作品である。

6年生の詩『生きる』は、「生きている」ということを感覚的にとらえた、リズム感のある詩である。印象的な表現が児童の心をわきたたせ、自然と口ずさむ中で、あらためて「生きている」ということを考えさせる作品である。

## 3. 研究に関わって

### ① 指導援助のあり方

基礎基本としての詩の内容を読み取る力をつけさせるためには、表現に基づいてどう読んだかを話し合いなどで交流することが必要である。ところが複式授業の場合、2学年同時に学習するため直接指導できない場面が現れる。

そこで本時のように、5年生と6年生の話し合いの場面をずらすことで、それぞれの話し合いに教師が関わり、ねらいに迫れるような焦点化した話し合いを組織できると考えた。

### ② 学習活動の工夫

「味わう」ということを、「作者の見方考え方のよさ」と「表現のよさ」の2つの側面にとらえる。言い換えれば、内容を理解し作者の見方考え方のよさを感じつつ、言葉の響き、リズムなど、表現のよさを感じ取って読むことである。

そのためには、繰り返し音読することが大切である。そこで、本時でもリズムのよさや詩の内容を具体的に話し合い音読させることで、より深く詩を味わえるものとする。

### ③ 学習集団の育成

自己教育力をもった学習集団の育成をめざしている。学習の喜びを感じ思考力を高めるためには、練り合いが有効である。練り合いができる学習集団づくりとして、現在は次のような手順で指導している。

手順1：話し合いたい争点を見つけた子が、それをみんなに提案する。

手順2：回りの子が提案について、同意したり修正したりする。

手順3：教師は話し合いの争点を焦点化したり、修正したりする。

手順4：共通理解された課題に基づいて、司会者が話し合いを進めていく。

また、練り合えるためには、疑問を大切にすることと、友だちの発言を自分の考えと比べ、共通点と相違点に分けて聞けることを前提としている。

## 4. 本時のねらい

【5年生】短詩中のなぞ解き、比喩、連想などの表現のおもしろさを知るとともに、それぞれの詩に込められた作者の思いを想像することで、短詩のよさを味わうことができる。(2/3時間)

【6年生】詩「生きる」の繰り返しのリズムのよさを音読で知り、感性を大切にして生きる姿を読み取るとともに、「生き方」についての自分の考えをもつことができる。(2/3時間)

## 5. 本時の展開

	5年生の学習活動	教師の指導	6年生の学習活動
つかむ	○今日の課題を確認する。 4編の詩を読み、表現のよさや詩に込められた作者の思いを読み取ろう。	← 学習リーダーに本時の課題を打ち合わせしておく。 ← 本時の学習活動を板書しておく。	○今日の課題を確認する。 詩「生きる」を読み、表現のよさや詩に込められた作者の思いを読み取り、自分の考えを持つろう。
ふかめる	○4編の詩を視写する。 ○4編の詩を音読する。 ○自分の感想をノートにまとめ、詩のイメージを自分なりに持つ。 ○4編の詩の表現のよさや作者の思いについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>本文がヒントで、題が答えというなぞ解き</li> <li>「私の耳は貝の殻」という比喩</li> <li>蝶から恋文への連想</li> <li>単なる言葉遊びではなく、対象に対する愛情や思い入れをもっている作者の思い</li> </ul>	表現のよさを感じるとともに、作者の見方考え方を話し合うように指示を明確にする。6年生から話し合いに入る。 ← 詩の内容をより詳しく説明したり、自分に結びつけて話したりしている姿を価値づける。	○詩「生きる」を音読する。 ○自分の感想をノートにまとめ、詩のイメージを自分なりに持つ。 ○詩「生きる」の表現のよさや作者の思いについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>各連の最初の「生きている」ということ/いまきて・・・」繰り返しのリズム</li> <li>身の回りや広い世界のすべてのものの営みの中に「生きる」ことが存在するという作者のメッセージ</li> </ul> ◎「生きる」とはどのようなことか、各自の考えを話し合う。
まとめる	◎どんな作者の思いか、より深く知りたいことについて話し合う。 ○4編の詩の表現のよさや作者の思いを感じて、どこをどんなふうに見れば明らかになりながら音読する。 ○友だちと音読したり話し合ったりして感じた詩の感想を書き、発表する。 ○次の評価の観点で自己評価をし、次時の課題を確認する。	← 言葉のリズムや響きを味わわせるために音読させる。 ← 音読したり話し合ったことで表現のよさや発想のおもしろさに気づけたという感想を発表している児童の姿の良さを価値付ける。 ← 自己評価がAでない児童には授業後個別に指導する。また、表現に着目する力の弱い実態があれば次の活動に生かす。	○詩「生きる」の表現のよさや作者の思いを感じて、どこをどんなふうに見れば明らかになりながら音読する。 ○友だちと音読したり話し合ったりして読み取った感想を書き、発表する。 ○次の評価の観点で自己評価をし、次時の課題を確認する。
	なぞ解き、比喩、連想などの表現のよさを読み取り、作者の思いを読み取ることができた。		叙述や特徴的な表現などから、詩の中の生き方について読み取り、それに対する自分なりの考えをまとめることができた。